

27日の西播第2グループ・ゴルフコンペ、ご準備いただいた池田幹事はじめ、ご参加いただいた皆さん有難うございました。

今日10月31日はハロウィンです。紀元前2000年頃の古代ケルト（アイルランドやイギリス）では、10月31日は今でいう大晦日で、先祖の靈を向かえる日です。また同時にやってくる悪霊や魔女を除けるために、仮装や、蕪（カブ）でつくったランタン「ジャック・オーランタン」を置くのだそうです。

後に、リンゴの収穫時期と重なるため「収穫祭」として認知されるようになったようですが、日本のお盆にあたる古代ケルトの行事を、これほどまでに商業化する欧米人の商魂のたくましさに感心するばかりです。個人的感想ですが、日本の『秋祭りや新嘗祭』という収穫祭は、ド派手に商業化されないまま後世に伝えていただきたいと思います。

さて、先の27日の衆議院議員選挙の結果を皆さんはどうのようにお思いでしょうか？私は、与党の『ごり押し政治』から、緊張感をもって議論を尽くし施策を決めていく『まともな政治』になるのではという期待感を持っています。

国民民主党が公約に掲げた『103万円の壁の見直し』にも大いに期待をしています。1995年の見直し以降、30年近く変わらぬ『所得税および扶養控除』103万円の壁は、雇用者から一人当たり682時間（85日×8時間）の労働可能時間を奪い、被雇用者から72万円の収入の機会を奪っています。【兵庫県の最低賃金は1995年620円、2024年1,052円。（103万円÷620円/h=1,661時間、103万円÷1,052円/h=979時間、（1052-620円/h）×1,661時間=72万円】

週35時間以内の労働者数は2021年集計で1431万人。週15時間～29時間労働者数は720万人です。（いずれも2021年統計値）

一家計当たりの収入アップと、労働者不足の解消、および消費の拡大を期待してやみません。

卓　　話 ●富田哲雅会員

「ロータリーの友について」



I. (RI 雑誌月間からロータリーの友月間へ)

・2015-16年度まで、RIに雑誌月間がありました。1911年、RI初代事務総長C・ペリーがTHE NATIONAL ROTARIANを創刊すると共に、RIの雑誌月間は、1月の1週間を「雑誌週間」として始まりました。この雑誌は、翌年にTHE ROTARIANと改称され、

毎月、発行される様になります。

雑誌週間は、1984年度から雑誌月間となり、雑誌月間では、公式機関紙THE ROTARIAN及び世界の地域雑誌の購読と、雑誌の認識と活用に役立つプログラムが推進されました。しかし、RI理事会により2015-16年度に、雑誌月間は消滅しました。そして、2020年にTHE ROTARIANはROTARYに改称されます。

・RIのこの様な動向に対し、2015年、日本では、ロータリーの友委員会が、新たに9月を「ロータリーの友月間」としました。これは日本独自の特別月間であり、「友」を推進し、「友」の利用法について話し合う月間となっています。

II. (ロータリー公式機関誌 ROTARY とロータリー機関雑誌としての「友」)

- ・RI唯一の公式機関誌 ROTARYは、1911年にエバンストンで出版されます。
- ・ROTARYの基本目的は、RI理事会が、ロータリーの目的を推進し、ロータリーの綱領を達成するのを助ける媒介としての役割を果たすことにあります。
- ・RIの公式機関誌英語版 ROTARYは、現在、発行部数が50万部を超え、168ヶ国に有料配布され、日本では、約5,000部が購読されています。
- ・1977年の規定審議会で、一定の条件を満たした地域雑誌が公式地域雑誌と認められる様になった為、日本の「ロータリーの友」は1981年から正式にロータリーの公式地域雑誌として認められました。依って、日本の会員は「ロータリーの友」を購読すれば、機関誌 ROTARYを購読したと同等であると見做される様になりました。「ロータリーの友」は、出発から広報誌ではなく、ロータリアンの為の機関・情報誌であり、世界や日本のロータリーの状況や活動について、全国のロータリアンが情報や思考を共有できるように編集されています。

III. (機関雑誌)

- ・ロータリーの機関誌については、2022年の手続き要覧の標準ロータリークラブ定款第15条及びRI細則第21条に於いて、公式機関誌「ROTARY」と「RI理事会に認可

された地域雑誌」を「機関雑誌」とし、更に購読義務と購読料について定義しています。

- ・更に、RI 細則第 21 条では、機関雑誌出版の権限と目的と有料購読と雑誌収入の扱いが定義しています。
- ・そして、RI 理事会は、現行の理事会方針であるロータリー章典第 51 条「出版物」の項に於いて、「ロータリー地域雑誌」とは、ロータリーの目的をあらゆる面で推進するためには存在すると定義しています。
- ・RI は、地域雑誌と認定する為に、ロータリー章典に詳細に 17 の判断基準を設けています。
- ・日本の地域雑誌である「ロータリーの友」は、これら 17 の認定基準を満たし、RI の認可を受けた公式の機関雑誌です。「友」はロータリアンがロータリーライフを深める為、そして、クラブが RI とのつながりを実感する為にあります。

IV. 公式地域雑誌「ロータリーの友」)

- ・日本の公式地域雑誌「友」の特徴は、横ページと縦ページから構成されることになります。横ページは、RI の機関誌、情報誌であり、ROTARY の記事の中から、RI の指定記事、特別月間の関連記事、活動が掲載され、内外の動向を知ることができます。
- ・縦ページは、ロータリアンの個人の意見や経験談が掲載され、会員の交流と公開討論の場です。従って、会員の皆様の投稿に寄る「友」への参加は、主に縦ページとなります。
- ・その他「友」はより多くの人に読まれる様に、レイアウトや文字や紙質まで隨時工夫して来たことも強調しておきます。
- ・「友」は、ロータリーの友委員会によって運営され、すべてのロータリアンがロータリーの理念や活動が理解できるように、そして、社会の話題も掲載され、内容の充実が図られています。ロータリーの友委員会とは、RI の機関誌発行の条件とされる委員会で、正副委員長や RI 理事、地区代表委員などで構成されています。
- ・「友」は章典通り、地域雑誌としてロータリーの目的推進に努め、編集方針を定めています。「友」はロータリーの内外の活動を紹介し、ロータリーへの興味を高め、親睦を図り、ロータリー精神と活動に寄与することを目的とします。
- ・友の基本方針、年間編集企画等は毎月、ロータリーの友事務所理事会が、決定し、友委員会が監督します。各地区より毎年 1 人選出される地区代表委員は、友への提言や広報及び情報提供を任務としています。

ロータリーの定款には、雑誌購読の義務があり、「ロータリーの友」を読んで、情報を得、意見交換を通して、親睦を深め、奉仕の実践を通して、互いに友情を育てることが、ロータリー綱領の実現に近づけるとされています。即ち、わざわざロータリー

が、雑誌購読を会員の義務として果たしているのは、それが、ロータリー綱領の実現、つまり奉仕の手段として有効だと考えているのに他なりません。

V. (「友」の変遷)

・1952年に、日本を2地区分割するに伴い、共通の機関誌創刊が必要となりました。この為、準備会は、新たな機関誌について、「編集委員は合議制、東京で発行、定価は50円とするが広告掲載により100円の内容とする。名称は、ロータリーの友とする。創刊は1953年1月号とすること」を決定しました。

これにより、「友」は3,300部で、横組で1953年にスタートしますが、1972年から縦・横組形式となりました。

・「友」は、1977年、RI定款第10条改正により、1980年7月号、「友」がRI公式地域雑誌と認定されました。

1992年 規定審議会で、「友」を読むことが、正式にロータリアンの義務となりました。

2003年、ロータリーの友ウェブサイトを開設。

2013年、印刷版と電子版の選択可能となり、2014年1月号から電子版を発行

2018年10月 RIはTHE ROTARIANと地域雑誌の総称を「機関雑誌」と定義。

2022年 デジタルアーカイブがスタート。

・現在、「ロータリーの友」は、約86,400部が発行され、世界最多の公式地域雑誌です。「友」の購読料は年間約259百万円、広告料は年間約200万円となっています。

・世界の30のRI公式地域雑誌の発行部数は、約75万部で、公式雑誌ROTARYの50万部と合計すれば、120万部に及び世界会員数に相当します。

VI. (「友」の役割と投稿の薦め)

ポール・ハリスに始まるロータリーが、職業奉仕の実践哲学を五大奉仕へと普遍的に拡大できたのは、この雑誌購読が、ロータリー情報を提供し、奉仕の実践を検証できる役割を果たして来たと考えています。更に、これが、次の奉仕実践のステップに繋がるので、この終わりなき好循環こそが、ロータリーそのものです。

・「友」は、以上の様に、日本の地方に住む我々が、ロータリーの内外の情勢を容易に知る手段です。しかし、「友」は情報源として活用するだけでは十分ではありません。友の利用は、積極的に投稿して参加することにより完成されます。

・今年度片岡会長より当クラブから4回の投稿を促す様にミッションがありました。つきましては、最後に会員の皆様に投稿のご協力を願いして、卓話を終わります。本日の卓話が皆様の「友」理解の一助になれば幸いです。